

重要な構成要素「山本亭」

建築：母屋 1923（大正 12）年から増改築

歴史ある近代和風建築と庭園

山本亭のある場所には、江戸時代後半から「柴安^{しばやす}」という刻印を打った瓦^{かわら}製造を行っていた鈴木安五郎^{やすごろう}の屋敷と瓦工場がありましたが、1923（大正 12）年の関東大震災によって瓦製造をやめてしまい、その跡地に台東区浅草でカメラ部品を製造していた山本カメラが工場と居宅をここに移しました。

山本亭の特徴は、近代和風建築と純和風庭園にあります。母屋は書院造風の古風な日本建築を基調としながら、縁側にガラス戸を設けるなど、洋風の建築様式を採用した近代和風建築です。1933（昭和 8）年頃までの増改築により、鳳凰の間と呼ばれる応接間のように、マントルピースを備え、ステンドグラスをあしらった洋風のモダンな造形が加わるなど、山本亭ならではの建築造形的な特徴が整えられました。また、南面に構えられた庭は、面積こそ他の著名な庭園に比べて小さいものの、奥に滝を配することで奥行きを持たせ、池の岸にアクセントをつけて広がりを持たせるなど、日本の伝統的な庭造りの工夫が見られます。庭園の植栽は、そのほとんどが常緑樹で構成され、どの季節に訪れるお客様にも美しい庭を楽しんでもらいたいという家主のおもてなしの心を感じる庭園でもあります。この近代和風の母屋と純和風の庭とが調和した姿が山本亭の最大の魅

力であり、また、地下に築かれた防空壕も山本亭の歴史遺産としての価値を高めています。

山本亭は、1988（昭和 63）年に葛飾区が取得し、1991（平成 3）年の柴又公園の開園とともに一般公開されました。（東京都選定歴史的建造物、葛飾区登録有形文化財）



ながやもん いらか
長屋門と母屋の 麓を望む

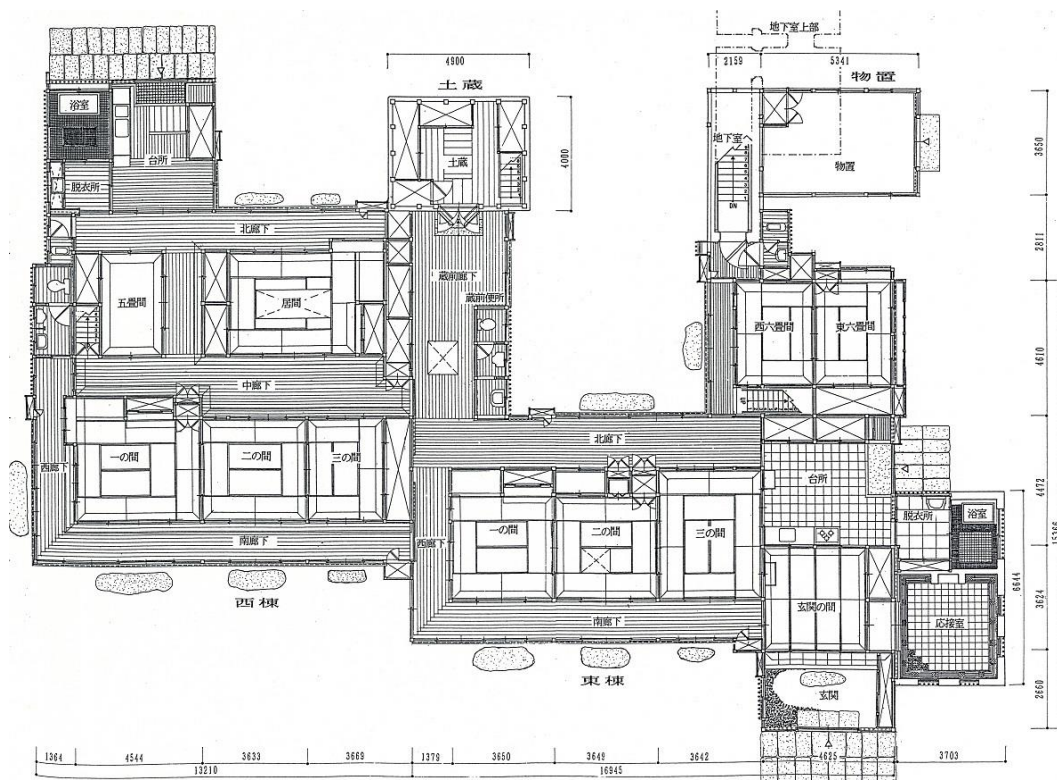


山本亭防空壕（左：入口階段 右：内部）※普段は非公開



図面 4. 旧山本家住宅／配置図兼 1 階平面図

配置図兼 1 階平面図



図面 6. 居宅・物置・土蔵／1 階平面図

居宅・物置・土蔵 1 階平面図